

PDCAとしてのフォローアップ案 ーアクションプログラムと行政事業レ ビュー他の連携の視点ー (経済・財政一体改革推進委員会と行革推進会議 (歳出改革WG)の有機的連携)

2016年3月30日(水)

第8回 経済・財政一体改革推進委員会

赤井伸郎

(大阪大学国際公共政策研究科)

akai@osipp.osaka-u.ac.jp

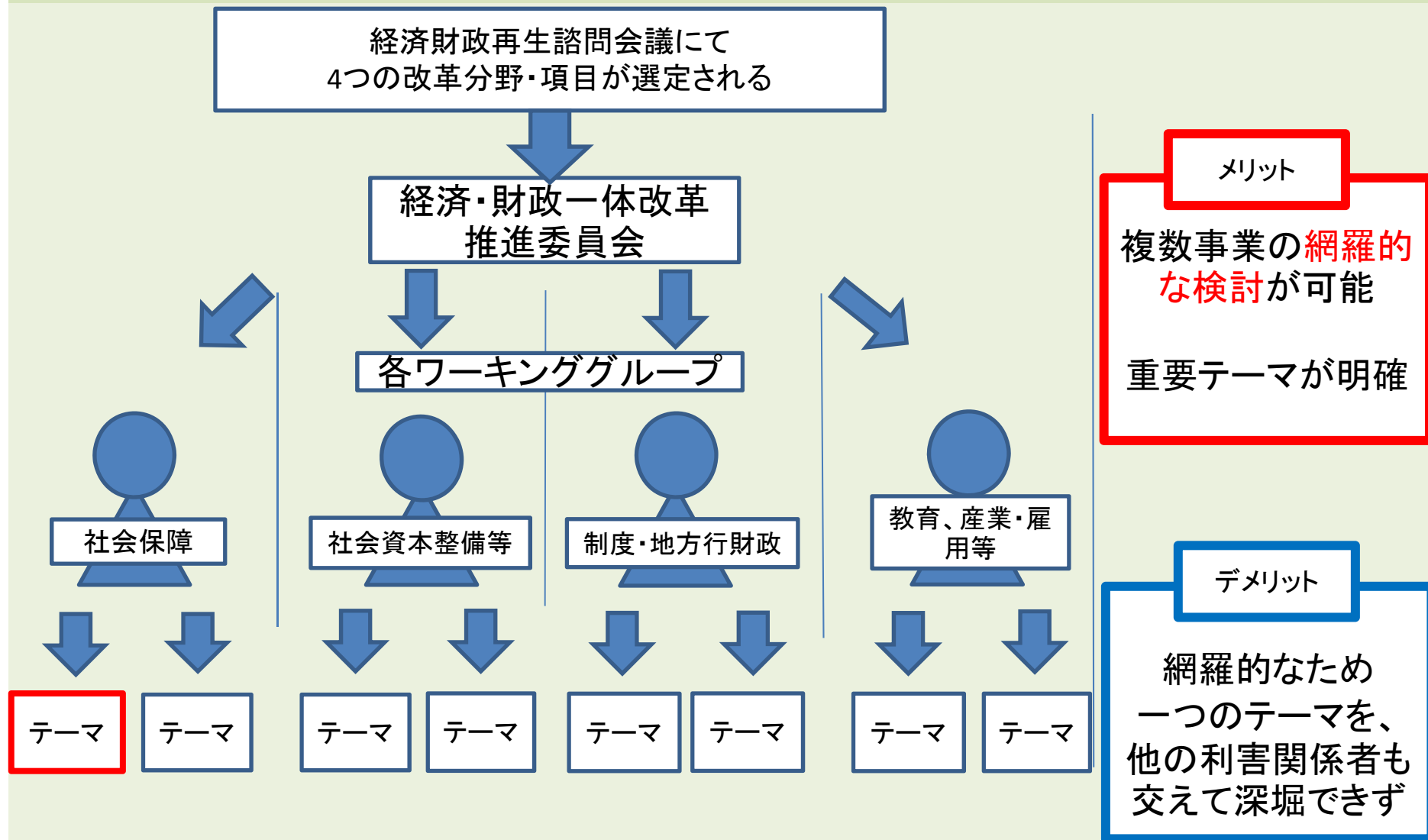
提言 PDCA・フォローアップで注意すべき視点

視点①	単年度で評価に成果を求めすぎない。 課題の濃淡を考慮して、スピード感と実効性のバランス。
視点②	予算編成作業と同様の意気込み
視点③	マイクロデータを用いた精緻な研究・分析 およびそれらに基づいた評価の高度化
視点④	アクションプログラムと行政事業レビュー他の連携（推進委員会WGと歳出改革WG）による面的なチェック体制

以下、④について詳細。

現状

アクションプログラムの仕組み



レビューとアクション・プログラムの連携についての言及

<http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/reform/committee/summary_271216.pdf>より

- 事業の効率的・効果的な実施を目指すレビューは、アクション・プログラムのワイズ・スペンディングと、目指す方向性が同じ。
- アクション・プログラムの工程表やKPIと、レビューの対象である5,000事業がどういう関係にあるのか、適切にリンクづけすることが必要。
- 内閣府の事務局とともに、レビューの実施要領の改善につなげていくために、連携を深めることが重要。

さらなる経済・財政一体改革推進委員会WGと行革推進会議
(歳出改革WG)の有機的連携の必要性

新たな 具体提案

経済・財政一体改革推進委員会WGと行革推進 会議(歳出改革WG)の有機的連携

取組① 「公開プロセス」「秋のレビュー」において、アクションプログラムと連携したレビューシートを用いて議論。

アクションプログラムと連携したレビューシートを用いて、KPIの達成策を議論。

取組② アクションプログラムで深堀出来なかった課題を重要課題検証でさらに深堀

関係省庁に加え、施策・事業推進に関わる利害関係者を交えて課題を整理し、課題・障害を深く分析し、推進策を練り上げ。

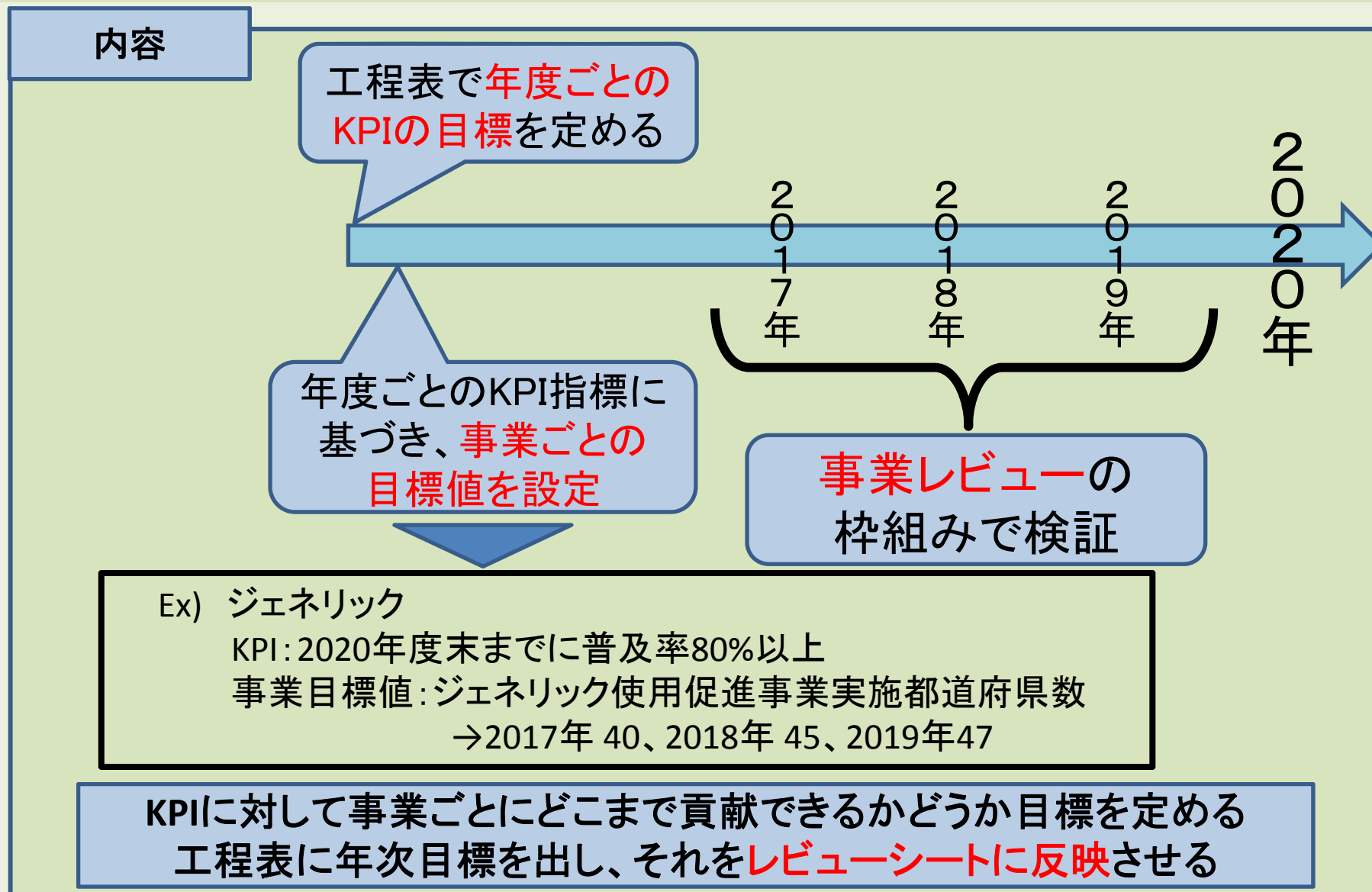
徹底した面的フォローアップで確実に推進。

参考:「重要課題検証」

- 「秋のレビュー」や「公開プロセス」で取り上げた重要テーマ・事業について指摘事項の反映状況やそれによる政策効果の向上度合等を複数年も視野に継続的に検証する取組み
- 有識者や省庁外の利害関係者にもヒアリングを実施(昨年春は後発医薬品(ジェネリック)をテーマとして取り上げ、成果を「経済・財政再生計画」(骨太方針2015)に反映)。

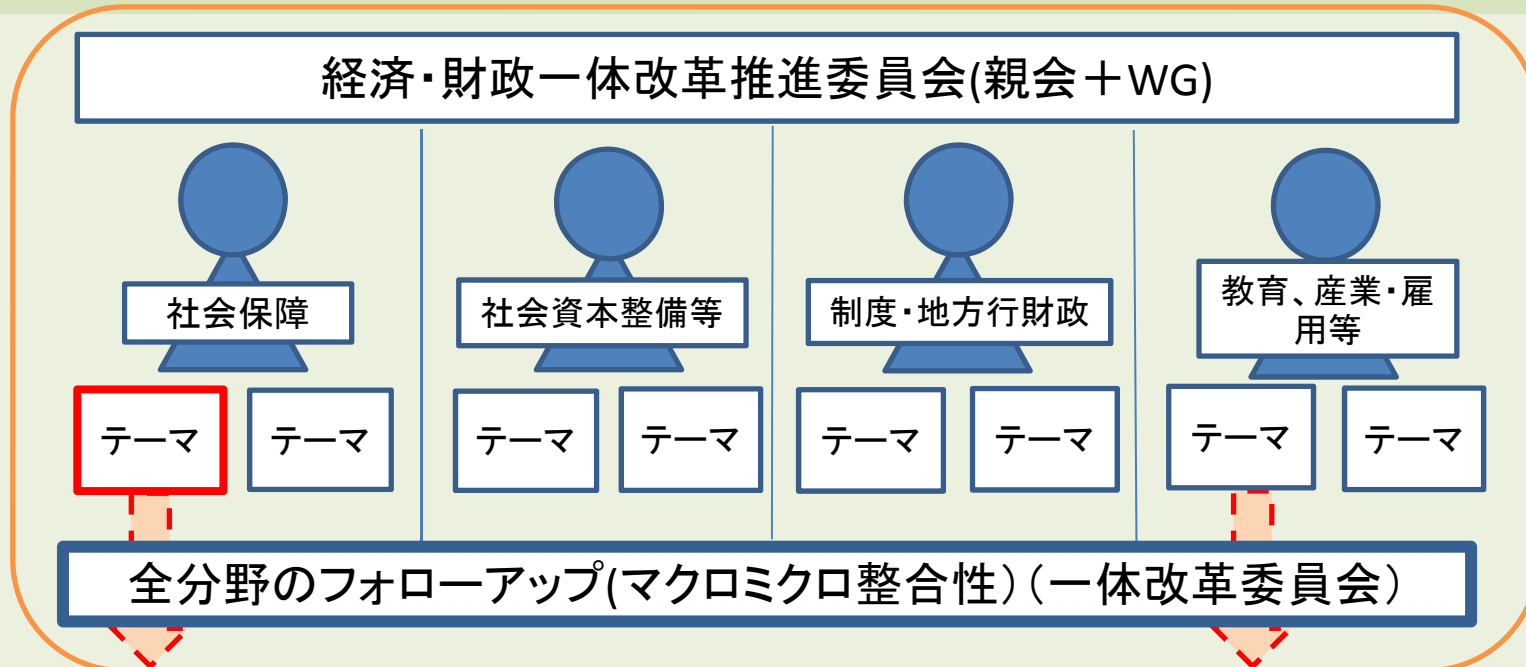
具体案1

アクションプログラムと連携したレビューシートを用いて、KPIの達成策を議論。



具体案2

アクションプログラムで深堀出来なかった 課題を「重要課題検証」でさらに深堀



障害が多い、利害関係が複雑、問題が根深いため、進捗が厳しい見通しの施策の洗い出し

行政改革推進会議との連携・サポート(「重要課題検証」)

テーマを絞り、施策・事業推進に関わる省庁・自治体・利害関係者を交えて課題・障害を深く分析し、推進策を練り上げる。

まとめ

相互補完による有機的連携で確実に推進

